平成 　31 年　5　月　22　日

研修報告書

氏名：曽根原　弘樹

所属：千葉大学医学部附属病院産婦人科・遺伝子診療部

研修期間：平成31年　2月　4日　～　平成31年 2月 21日

研修場所：信州大学医学部附属病院遺伝子診療部

研修内容：

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 　 | 月  | 火  | 水  | 木  |
| 　 | 　 | 　 | 　 | サンガーミーテイング |
| 午前 | 症例検討会 | 外来（古庄、小児、周産期、家族性腫瘍など） | 細胞遺伝学実習(涌井先生）稲荷山医療センター見学 | NGS関連実習（山口先生、院内クリニカルシークエンス体制紹介） |
| 外来 |
|
| 　 | 　 | 　 | 　 | 昼食会（基礎棟、カンファ室） |
| 午後 | ID外来（髙野先生、知的障害、症候群） | 外来（古庄、小児、周産期、家族性腫瘍など） | 外来（中村先生、成人、神経） | 症例まとめ |
|
|
| 　 | 　 | 　 | 　 | 　 |
| 夕 |  | カンファレンス | 　 | 　 |
|

研修成果：

信州大学での遺伝医療研修によって、初診の遺伝カウンセリングから長期的なフォローアップまでの一連の流れを経験することができた。これまでは、部分的に理解していた各過程を理解できたことで、今後の診療にとって重要な成果が得られた。

　初回の遺伝カウンセリングでは患者、リスクのある親族、キーパーソンといった関わる方々のニーズや不安を拾い上げ適切なタイミングと手法での遺伝学的解析につなげる手法を経験することができた。遺伝学的解析は実際の検体を用いた実習形式でG band法やアレイといった染色体構造解析、次世代シーケンサーやサンガー法による1塩基レベルでの評価をともに経験することができた。様々な手法が開発されている昨今にあっても、熟練した技術が必要である点が理解できた。結果の返却から関連各科との連携が効果的に行われている点も学ぶことができた。また、稲荷山医療センターにおいて地域に根ざした長期的フォローアップが行われている点も経験でき、高次医療機関に留まらない遺伝医療の広がりを実感することができた。

その他（感想・要望・反省点、等）：

非常に貴重な経験ができた。これまでは産科・婦人科領域に関する遺伝医療の経験が多かったが、信州大学では小児科、神経内科、耳鼻咽喉科、消化器外科・内科、整形外科といった多岐にわたる診療科との連携の中で遺伝医療を実感することができた。また、長期フォローを行われている患者との良好な関係性も印象に残った。ラボワークに関する経験もすることができ、理解が不足していた遺伝学的解析についても理解することができた。